

平成25年度教育事業 環境教育学習プログラム開発事業

「子ども環境探検隊」

1 趣旨

青少年が環境保全活動に携わっている人々との交流や伊豆沼に飛来する白鳥、鴨など野鳥の生態を直接観察することにより、自然の仕組みや希少価値等を理解する活動を行う。それらを通じて、環境問題を正しく理解させるとともに、環境を守るための責任ある意識を育む。

2 主催

独立行政法人 国立青少年教育振興機構 国立花山青少年自然の家

3 後援

宮城県教育委員会・栗原市教育委員会

4 期日

平成25年11月2日（土）～4日（月・祝） 【2泊3日】

5 場所

国立花山青少年自然の家 及び 伊豆沼周辺フィールド

6 講師

(1) マガンのねぐら入り及び飛び立ち観察プログラム講師

宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団 上席主任研究員 嶋田 哲郎 氏

(2) 伊豆沼周辺の環境を活かした食農事例のお話と手づくり体験講師

有限会社伊豆沼農産 企画室 鈴木くに子 氏・同 佐藤 裕美 氏

(3) 環境学習ワークショップ講師エコデコイクラフト講師

大崎自然界部 部長 若見 朝子 氏

7 参加対象と人数

小学校4年生から6年生 30名

8 参加状況 ※3年生は対象ではなかったが、兄弟での希望を考慮し参加を了承した。

	宮城県		計
	男	女	
3年生※	1	0	1
4年生	3	4	7
5年生	4	2	6
6年生	1	0	1
計	9	6	15

9 日程

11月2日(土)	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22		
	東北新幹線:くりこま高原駅 上り(東京方面)11:57着 下り(盛岡方面)12:05着 高速バス:栗原市役所前 12:07着											開講式	移動 ※途中、サンクチュアリセンター敷地にて「伊豆沼の四季」についてビデオを鑑賞	マガンのねぐら入りを観察(宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団)	移動	夕食・休憩	入浴 ベッド・着替え	就寝準備	消灯・就寝		
												バス移動	伊豆沼周辺	バス移動	国立花山青少年自然の家						
11月3日(日)	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22		
	起床・着替え	移動	マガンの飛び立ち・日中の様子などを観察 〔宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団〕 ※朝食は弁当を予定							伊豆沼周辺の環境を活かした食農事例のお話と手づくり体験 (伊豆沼農産)		環境学習ワークショップ (大崎自然界部)		移動	着替え等	夕食・休憩	入浴 荷物整理 退所準備	就寝準備	消灯・就寝		
	自然の家	バス移動	伊豆沼周辺							伊豆沼農産花ハウス		伊豆沼・内沼サンクチュアリセンター	バス移動	国立花山青少年自然の家							
11月4日(月)	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22		
				起床・清掃	健康観察等	朝食・荷物移動	まとめの活動				アンケート記入	昼食・休憩	閉講式	高速バス:栗原市役所前 14:42発 東北新幹線:くりこま高原駅 上り(東京方面)14:57発 下り(盛岡方面)15:06発							
	国立花山青少年自然の家																				

10 実施状況

(1) 企画のポイント

- ・1日目の開講式後、事前学習としてサンクチュアリセンターつきだて館(昆虫館)で上映を実施している「伊豆沼の四季」を観賞するとともに、館内に展示してある昆虫の標本を見学するなどして、マガンや伊豆沼周辺の環境について学習する意欲を高めた。
- ・宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団の上席主任研究員である嶋田哲郎氏を講師として招き、マガンのねぐら入り及び飛び立ちを観察するプログラムを実施した。また、2日目の飛び立ち観察後にはマガンの日中の様子を観察するとともに、スライドを使った嶋田氏の説明により、伊豆沼とそこに生息する生物や飛来する野鳥などについての理解を深め、環境保全に対する意識を高めた。
- ・有限会社伊豆沼農産の協力により、伊豆沼周辺の環境を活かした食農事例のお話を聞き、鈴木くに子氏と佐藤裕美氏の指導の下、「伊達の純粋赤豚(伊豆沼農産登録商標)」を使った豚まんの手づくり体験を実施した。
- ・大崎自然界部の若見朝子氏を講師に、スギの間伐材を原料とする国内産バイオマスプラスチックを使用した「エコデコイ」へ色付けをするクラフト活動を、環境学習ワークショップとして行った。
- ・3日目には、まとめの活動として「3日間をふりかえり、絵を描く」プログラムと、それを基にした「感想発表会」を企画した。

(2) 運営のポイント

- ・職員5名と学生ボランティア6名のスタッフ体制で運営し、班付きカウンセラーとして男子班に4名、女子班に2名を配置した学生ボランティアが、主として子どもの対応にあたった。
- ・講師として協力してくださる方々と、電話やメール、直接訪問するなどしながら指導していただく内容などの打合せを入念に行い、プログラムが円滑に実施できるようにした。
- ・所外での活動に関して、移動に要する時間を考慮に入れながら、食事、休憩、トイレ等の場所を確保し、健康面や安全面に十分配慮して運営を行った。
- ・毎日スタッフミーティングを実施し、子どもの様子、翌日の動きなどを確認し、

スタッフ間の共通理解を図った。

(3) 安全管理のポイント

- ・「ほう（報告）・れん（連絡）・そう（相談）＋確認」を徹底する。
- ・参加者への指導を行う場合には、一人に対処せずに複数で実施する。
- ・「安全・安心」な野外活動を心がける。特に、防寒対策に留意する。
- ・活動前のSAFETY TALKを実施する。
- ・塩分と水分のこまめな補給。強制的に飲ませることや飲んだことを確認する。
- ・活動前後の人員点呼の遂行。
- ・活動前に正しい服装について指導を行う。
- ・天候の急変に細心の注意をはらい、最新で正しい情報収集と共有を徹底する。
- ・スタッフによる健康管理と手洗い・うがいの励行。

(4) 実施状況

【11月2日（土） 1日目】



宮田所長による開講式での主催者あいさつ 昆虫館に場所を移し映像を使って事前学習



講師の嶋田氏から観察前に説明を受ける

このあと目に映る光景に期待が膨らむ



伊豆沼のポイントに移動して観察の準備



日が沈む頃にマガンのねぐら入りが始まる



頭上を間近に飛ぶマガンの群れに感動

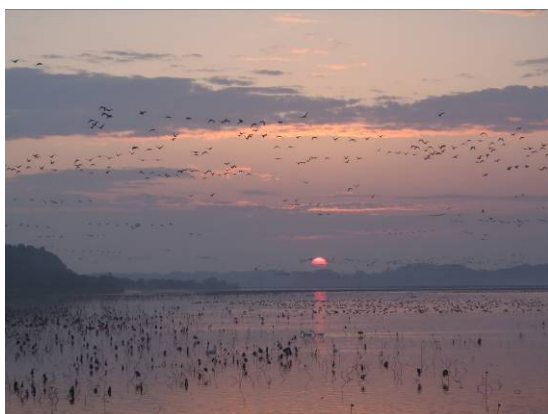


マガンが空一面を覆う様子は圧巻の風景

【11月3日（日） 2日目】



早朝に自然の家を出発して観察ポイントへ



日の出を背景にマガンが一斉に飛び立つ



バス移動しながら野鳥の日中の様子を観察



マガンの他にも白鳥などの姿が見られた



田んぼでは離れた所からレンズを覗き込む



観察後の講話で環境への意識が一層高まる



伊豆沼農産に場所を移し食農について学ぶ



鈴木氏・佐藤氏の指導による手づくり体験



赤豚を使用した豚まんづくりに挑戦



自分でつくった豚まんは「おいしい！」



環境学習ワークショップ講師の若見氏



間伐材を原料とするエコデコイへの色付け



筆洗いやパレットには牛乳パックを再利用



資料を参考に自由に色付けした作品が完成

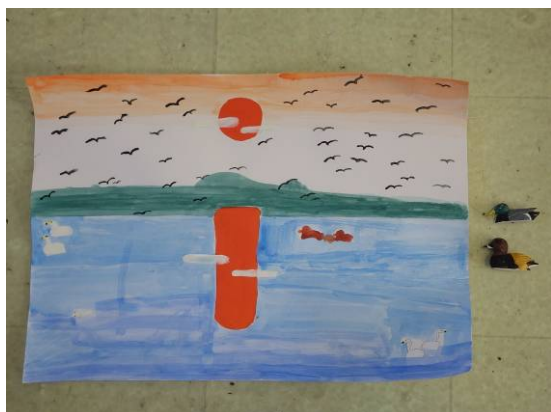
【11月4日（月・祝） 3日目】



絵を描きながら3日間の活動をふりかえる



パレットなどは前日の活動を参考にして



絵で表現された印象に残っている場面



最後に自分の描いた絵を基に感想の発表会



閉講式では熊木次長から参加者へあいさつ



3日間を一緒に過ごした仲間と記念撮影

10 成果と課題

(1) アンケートの結果

①参加者の満足度（アンケート回収率 100.0%）

単位：％

設 問 事 項	満 足	やや満足	やや不満	不 満
事業全体をとおしてはどうでしたか。	73.3	20.0	6.7	0.0
事業のプログラムはどうでしたか。	73.3	20.0	6.7	0.0
事業の運営はどうでしたか。	73.3	26.7	0.0	0.0
職員の指導・助言はどうでしたか。	73.3	20.0	6.7	0.0
ボランティアの対応はどうでしたか。	80.0	20.0	0.0	0.0

参加者15名に対して、事業後に行ったアンケート調査の集計結果は、表のとおりであった。

5つの項目全てにおいて、「満足」「やや満足」が参加者全体の90%以上と高い割合を占め、この事業は概ね好評であったといえる。

②自由記述より

- ・単に「楽しかった。」というような感想だけでなく、「早起きして、ちょっとつらかったがよかった。」「つかれたけど、すごい感動した。」「朝早く起きるのはきつかったけど、見れてよかった。」「朝は早かったけど、風景がすごかった。」など、活動は大変ではあったが、頑張ったことで普段見られない貴重なものが見られ、それに対して感動や満足感が得られた様子が記されていた。
- ・「自然っておもしろいな、と思った。」「自然のすごさやおもしろさがいっぱい見れる事業だった。」など自然のおもしろさを感じたり、「ガンには色々な種類があることや自然の大切さがわかった。」など自然の大切さを実感したりした記述がみられた。
- ・「こんな身近にも、いろいろな自然があることに気づけた。」というように、自分の住んでいる地域にある自然の豊かさに改めて気づいたという声も挙がっていた。

(2) 成果

- ・「朝早く起きる」「寒くても我慢して待つ」など、子どもたちに日常できない体験を提供することができた。
- ・ただ体験するだけでなく、頑張ったことで普段見られない貴重なものが見られるといった対価があるプログラムを取り入れたことで、参加者の満足度も高くなったと考える。
- ・様々なプログラムを設定することで子どもたちは多くの体験ができ、また、講師の先生同士のつながりもあってよかった。
- ・学生ボランティアをカウンセラーにすることによって、ボランティアが主になって子どもへの対応ができたのがよかった。

(3) 課題

- ・ 小学校4年生から6年生までの30名を募集したが、17名の応募で15名の参加（2名キャンセル）であった。特に、6年生からの参加者は男子1名と大変少なかった。募集人員に達しなかった点について、チラシの配布枚数を増やすことや保護者へのアピール方法を考える等の対応策が、次年度に向けて必要である。
- ・ 子どもたちにとってわかりやすい共通するテーマを設けて軸にすることで、一つひとつの活動から環境への意識を促したり変容させたりという部分も深まっていくものとする。
- ・ 探検マップのようなものを配布するなど、探検的な要素を取り入れることでより子ども達の意欲が高まるのではないかと考える。
- ・ 朝早い活動のときは日中に休息の時間を設定するなど、子ども達の体調を考慮した日程やプログラムの組み立てを検討していく。